

キックオフ

札幌地域労組機関紙

S G U

SAPPORO GENERAL UNION

第135号

2012年9月5日発行

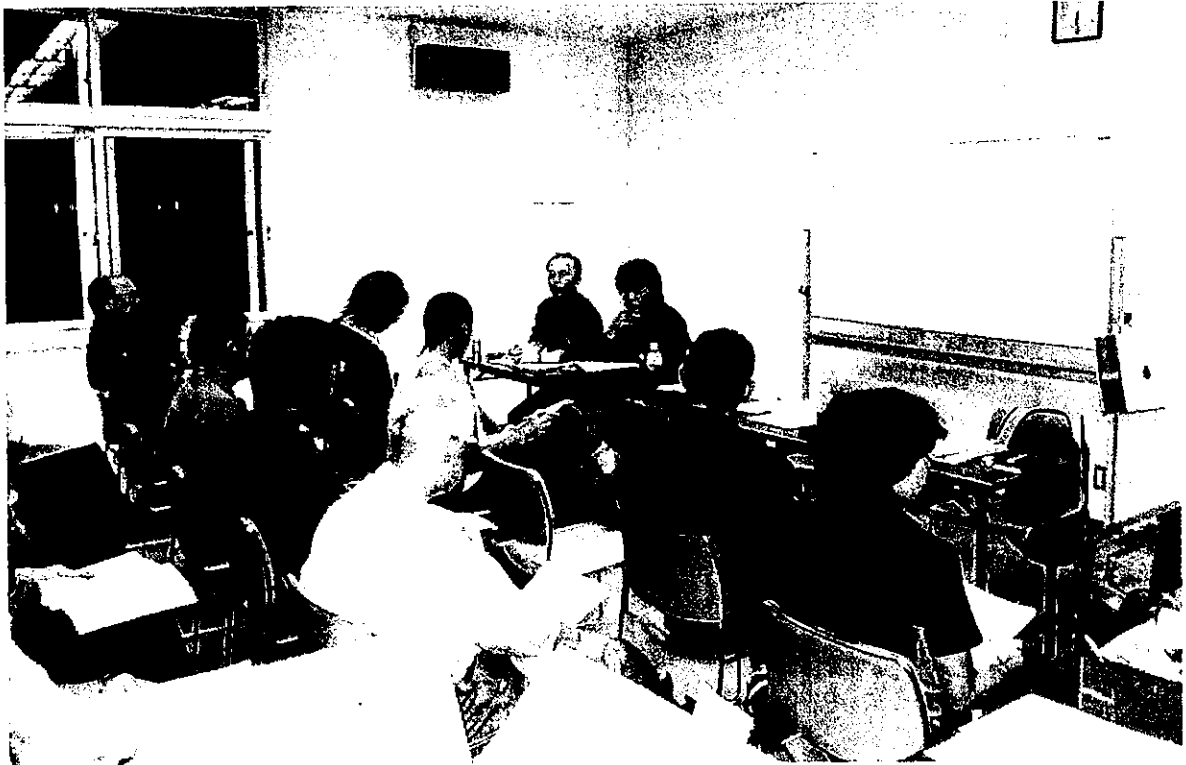
札幌市北区北6条西7丁目 北海道自治労会館 3F

TEL011-756-7790(代) FAX011-756-7792

URL <http://www.infosnow.ne.jp/~sgu/>

地域の仲間と共に!

職場の民主化を目指し恵庭環境支部誕生!



地域労組加盟を決定した臨時大会 恵庭市恵み野会館にて 2012.8.23

恵庭市のゴミ収集とリサイクルセンターの管理運営を委託されている「恵庭環境保全事業協同組合」で労働組合が初めて結成されました。

支部の結成は、そもそも東京を拠点に活動を展開しているジャパンユニオン（東京東部労組が組織する合同労組）に雇用不安や低賃金労働を改善するため数名が個人加盟するなかで、組合員が拡大し従業員のほぼ全員が参加する支部となりました。その後、ジャパンユニオンから札幌地域労組へ正式に加盟変更の依頼があり、打合せを重ね、8月23日に臨時大会を開催して札幌地域労組加盟を決議し、組合名も札幌地域労組恵庭環境支部に改めました。こうしてまた一つ清掃関連で同じ志をもった仲間が誕生した訳です。

この業界での組織化後の課題は、札幌や東部清掃の時と同様に問題は多岐にわたります。併せて、使用者側の非民主的な経営のもと、労働者は機械の部品のごとく扱われてきています。恵庭環境支部においても、問題は山積しています。特にこの数年、一時金の一方的引き下げが強行されたり、理事者自らの報酬を増額するために従業員の賃金カットを目論んだりしているのです。今回の組合結成により、このような一方的な措置に歯止めをかけると同時に、民主的な職場を目指して運動を展開していきます。

これから団体交渉が開始され、労働条件の改善に一步踏み出す仲間にご支援をお願いします。

書記次長 大島利広

(二面上段に続く)

組合結成の経過

恵庭環境支部 支部長 菅原常人

今年1月に創業者である前理事長が亡くなり、新理事長体制での様々な不安要素があり4月に従業員労使担当者（従業員代表）を選出し、前部長と協議した内容を上申書として理事長へ提出した後、5月11日付けで回答がありました。

【上申書内容】

1. 給与格差の是正と適正化
2. 賃金規定における適正な昇給の実施
3. 慣例的に支給されている3月決算手当の継続的な支給

【回答内容】

1. 本年4月の昇給はおこなわない、来年4月から年収制限を定め、年収オーバーの者については3年間をかけて年収をカットする。
2. 運転手当が相場より高いため、来年4月から引き下げる。
3. 来年度以降の決算手当は支給しない。

上申書の項目1に関して当時のK部長の好き嫌いで給与の格差が広がり、自身の息子を部長代理として従事させるなど、好き放題の行動に従業員の大多数が署名し役員に嘆願書を提出、結果、K部長親子を退職へ追い込むことが出来ました。

しかし「労働組合」ではないため、様々な圧力や切り崩しを受けました。

今回は嘆願書の成功点や反省点も踏まえ、労働組合への加入を決意。本年6月、従業員46名中45名がジャパンユニオンへ加入し、8月23日付けで上部団体をジャパンユニオンから札幌地域労組に移行、SGU恵庭環境支部が結成されました。

本来、労働組合の看板を後ろ盾に使用者側と簡単に闘えると思っていたのですが、使用者側は顧問弁護士を就けたことにより、素人集団の当該組合員だけでは対応が困難と判断し、一部始終をジャパンユニオン矢部氏へお話ししました。現在は東京からの団交への参加及び打ち合わせも毎回の出席が困難なため、札幌地域労組大島氏が新たな担当者となり補佐していただけるようになりました。

臨時大会では東部清掃支部様、公清企業支部様も駆けつけていただき、貴重な体験等を聞かせてもらい、当該組合員も非常に実りある時間だったと喜んでおりました。

恵庭市は現在2社でのゴミ委託収集事業です。当面、「恵庭市委託清掃友の会」の設立を目標とし、恵庭市とも交渉できるような組織づくりをめざして札幌地域労組とともに歩んで行けたらと思っています。

脱原発集会開催！！～原発のなにかが怖いのか～

札幌地域労組保育部会主催講演会

「本当に怖い！原発と放射能—子どもたちを放射能から守りたい—」と題し、札幌琴似工業高校の現役教師である川原茂雄氏の講演が8月31日自治労会館であり、まさにユーモアと涙ありの熱の入った講演となりました。

下川町・幌延町の高レベル放射性廃棄物の貯蔵問題や、1986年のチェルノブイリ原発事故等、過去の事故・問題により川原氏は「原発は危険だということを知りながら、伝えてこなかった」ことを自分自身が反省し、この出前授業を始めたきっかけであると話されました。

そして東日本大震災において福島第一原発の事故が発生し、予想された危惧が現実のものとなった今、政府が「本当のこと」をすべて開示し、一刻も早く福島の子どもたちを避難させなければならない理由を知ることができました。

原発のなにかがどう危険なのか？福島事故の現実とはなんなのか？これまで、「なんとなく放射能は危険」という程度の理解でしたが、それらを分かり易く解説していただくことで、その危険性をより深く知る機会となりました。

講演の最後に、「原発の電気を使った世代が、原発の電気を使わない世代にこの問題を押し付けることはできない。我々の世代で道筋をつけよう」と川原先生がより一層熱を込めて強調されました。

改めて脱原発運動を推進し、今も放射線を浴び続ける福島の子どもたちに手を差しのべるとともに、「真実とは何か」を知らなければならない必要性を痛感する講演でした。（佐竹）

「札幌市公契約条例」制定を求めて！ 上田市長も参加！

市が発注する「公契約」の受注事業に働く賃金下限額を定める意義について考える集会在、8月31日札幌市民ホールで開かれました。

その制定を目指す上田市長も参加し、業界の反対もあり市議会で「継続審議」になっていることに関して、「労働条件改善のステップになるし、税金が地域で循環するような効果を目指したい。」と強調しました。

集会は、有志による「札幌市公契約条例の制定を求める会」が主催し、札幌地域労組の組合員はじめ多くの市民・弁護士などが参加しました。

続いて、指定管理者制度などの説明とそこで働く人々の労働実態アンケートの報告があり、意見交換に入りました。

意見交換では、札幌地域労組より管理職ユニオンの小坏（こあくつ）副委員長から、「障害者などを雇用している事業者を優遇する政策入札制度の導入」、北真SGU副委員長から、「清掃受託現場での委託単価の低下による正社員から非正規社員への転換が進む問題」、阿部SGU執行委員から、「市立病院の業務委託における理不尽な就労実態」などが発言され、市長も今後の対応方針などについて説明しました。

これらのほか、参加者から切実な声が多く寄せられ、予定時間を大幅に超える有意義な意見交換となりました。（幸識）



小坏さん



北真さん



阿部さん

猛暑の中、試合の合間に冷たい美味しいメロンも食べました！！ 7チーム100名が参加した第36回ソフトボール大会



9月2日(日)今年も恒例のリゾートサッポロにて、昨年の小雨まじりとは一転30℃を超える猛暑の中、組合員・家族100名が参加し、ソフトボール大会を開催しました。

北真副委員長の主催者挨拶後、試合が行われました。

決勝戦は古参組合で昨年準優勝の古豪、北興化工機労働組合チームと、大会参加は昨年に引き続き2回目となる東部清掃支部チームとで行われ、試合結果は6対1で北興化工機に軍配が上がり、東部清掃が準優勝。又、3位決定戦は中央清掃支部とワールドサプライユニオンにて行われワールドサプライが勝利しました。

大会終了後は、新野特別執行委員の乾杯にて、お待ちかね焼肉と生ビールとジュースの食べ飲み放題を満喫、優勝・準優勝・3位のチーム全員には豪華な野菜の詰め合わせの賞品が進呈されました。なお、今回の景品はすべて丸果札幌青果ユニオンから寄贈されました。感謝！（進）

一人でも多くの福島の子どもを！

山口たか さん（福島の子どもたちを守る会・北海道事務局長）の寄稿

札幌地域労組ビアパーティーでの多額のご寄付、本当にありがとうございました。

おかげで61人の福島の親子が、16日間札幌やニセコで保養をして元気を回復することができました。又、組合の皆さまのボランティアとしてのご参加も心より感謝申し上げます。

一人でも多く、一日でも長く、一キロでも遠く、福島の子どもたちを県外へ。その思いだけで始まった、「福島の子どもたちを守る会・北海道」の活動です。

昨年3月11日、東日本大震災と東電・福島第一原発の巨大過酷事故。4機の原発が相次いで爆発し多量の放射能が環境中に放出されました。そして、まさに東日本大震災当日に福島から避難してきた、矢内（やない）幸子さんから、相談を受けたのは6月初旬。

当時、文部科学省は、子どもたちの年間被曝許容量を20ミリシーベルトとするなど、子どものいのちが危ないと思った、福島の親たちがネットでつながって文科省抗議をしていました。

矢内さんは、福島の学校で長年、養護教諭をしたあと、スクールカウンセラーとして子どもたちの心身の健やかな育ちを支援する活動をしていました。



北の大地で思いっきり遊びたい！！

ご自身は避難してきたけれど、福島に残っている知人友人から、福島の現状、文科省や福島県・市の対応を聞き、心を痛めていた時です。私は、その直前5月30日に、広瀬隆さんの講演会を開催しましたが、エルプラザホールが満員になり市民が福島原発の状況を知ろうと必死であることを感じました。そして講演のなかで、広瀬隆さんは、「子どもを守ってください、福島から避難させてください、お願いします」と訴えていました。

私にできることは何か、考え始めた時、私たちは出会いました。

まもなく、夏休みがやってくる、せめて、その間子どもたちを北海道に招待して放射能のない地で思い切り遊んでもらおう、と緊急に「福島の子どもたちを守る会・北海道」を立ち上げたのです。

1ヶ月しかない中で、寄付のお願い、宿泊所の確保、子どもたちの募集をどうするか、サポートするボランティアの確保など、山積する課題を前に、睡眠時間をけずり走り回った日々でした。

その間に多くのご寄付をいただき、会として7月22日に親子44人の受け入れが実現しました。

マスクのいらぬ毎日、土や花を触ってもかまわない生活、洗濯物を外に干せること、食材を心配しないで食事ができること……。3月11日まで当たり前だったことが失われた一青白い顔の子どもが真っ黒に日焼けした一その日常が戻ってきました。

その1ヶ月の夏休みを経て、8家族が札幌をはじめ県外へ避難しました。

めざせ！原発の無い社会・安心して暮らせる社会！！

その後、冬、春、そして今回の夏休みと計4回、福島の親子の受け入れをすることができました。合計160人の北海道での保養は、一体どれほどの効果があるか、誰にもわかりません。

しかし、福島原発がまだ収束せず放射性物質が放出され、汚染水が海を汚しつづけているなかで、「除染」で生活再建と言う県や国の方針ははなはだ疑問です。除染の効果も6割とか、除染してもすぐ元にもどるとも言われています。除染が必要な場所に30万人の子どもたちが今も置かれて居る事自体が問題だと思えます。



休暇の一時避難は、本当にささやかな取り組みですが、北海道に自分たちを心配してくれる人たちがいる、いざという時そのような場所があるだけで、少し安心して暮らせるかもしれないなど思ったりしています。

幼い子どもが「川俣町は放射能ないんだよ」と言っていました。いたいけな子どもにそんなことを言わせる社会は間違っています。

これからも皆さまと共に「原発のない社会」をめざし活動してまいります。

札幌地域労組の皆さま、本当にありがとうございました。

山口 たか

5年超えた有期雇用は無期雇用に転換？ 欠陥だらけの「改正」労働契約法が成立

有期雇用から無期雇用に転換させるために8月3日に労働契約法が改正(2013年施行)されましたが欠陥を抱えた内容となっています。

改正内容は、5年を超えて反復更新された場合は労働者から申込みをしたときに無期契約に転換させる。但し、6ヶ月(1年以内の契約は2分の1)の空白期間があるときは、前の契約期間は通算しないとしています。

予測されるのは、細切れの雇用期間の繰り返しによって、無期転換権を行使できなくなり、まさに脱法行為が可能となります。

使用者側は無期契約への転換を嫌って、5年超えたら更新しない、途中で次回は更新しないなどの雇止めへの濫用も予測されます。

地域労組としては、すべての有期雇用労働者に呼びかけ、雇止め法理をふまえて雇止めの濫用を許さない取組みを進めていきます。さらに「有期労働契約」は臨時的・一時的業務に限定し、有期雇用を抜本的に規制する運動を大きく広げていきます。(新)

多数の参加を！！

これでいいのか！有期労働 労働者の使い捨てを許さない市民集会

日時 2012年10月9日[火]

開場 18:00 開会 18:30

会場 自治労会館(北区北6条西7丁目)

会費 500円(資料代)

内容

第一部 「改正」労働契約法とは

第二部 パネルディスカッション

パネリスト

札幌地域労組書記長：鈴木 一

ローカルエコ結副委員長：木村 俊一

弁護士：長野 順一

コーディネーター

北海学園大学准教授：川村 雅則



職場探訪 第12回



～ 管理職ユニオン ～

今、障がいを抱える仲間と一緒に働いていて、素直に働くことに喜びを表すことに驚くとともに、新鮮な感動を覚えることがあります。

労働には、RiceWork 米のための（生きるための）労働、LifeWork 自己実現のための労働、そして社会貢献＝社会変革のための労働の3つがあるという人がいます。

私たちはついつい、RiceWork 米のための（生きるための）労働に着目しがちです。

労働組合運動においても、自分たちの生活のために、一緒に働く非正規労働者を見捨てる労働組合もあれば、自分たちの給与を下げてでも、非正規の仲間の生活を守ろうとする組合もあります。

北九州でホームレス支援をしている奥田知志さんという方が、ある講演で「皆さん、『助けて』って、最近言ったことがありますか？」と問いかけたことがあります。

実は喉のあたりまで出かかっても、なかなか言えないのが、この「助けて」だと思います。

ましてや、会社（使用者側）ともめた労働者が「助けて」と訴える相手はあまり多くありません。

だからこそ労働組合が求められるのだし、一人でも加盟できる「管理職ユニオン」があるのだと思います。実は、私も助けられたその一人でした。

結成15周年を迎え、過酷になる労働環境の中で、労働者の「助けて」に耳を傾け、そして新たに加わる管理職ユニオンの仲間を、少しでもお手伝いできればと思っています。

管理職ユニオン 副委員長 小塚章



札幌管理職ユニオン
第16回定期大会

定期大会の交流会にて（すみれホテル）

【 告 知 板 】

- ☆ 9月13日（木） 公契約条例大集会
エルプラザ3階ホール 18:15～
- ☆ 9月26日（水） 支部・単組代表者会議
自治労会館3階 役員会議室 18:30～
- ☆ 10月2日（火） 労働者の権利講座
自治労会館3階 役員会議室 18:30～

- ☆ 10月4日（木） 建設国保裁判について
○建設国保地位確認等請求事件判決言い渡し
札幌地裁 7階712号法廷 13:00～
○報告集会 自治労会館3階 18:30～
- ☆ 10月13日（土） 13:00～
さよなら原発北海道1万人集会 大通西8丁目
- ☆ 10月17日（水） 組合運営の基礎を学ぶ学習会
自治労会館3階 役員会議室 18:30～

【編集後記】

ノダ首相は、なんと消費税倍増を強行したノダ。

大企業は減税し、金持ち優遇税制の見直しも葬り去り、ワーキングプアなど低所得者ほど負担の重い消費税増税をしゃにむに導入した。当初、消費税引上げ分は社会保障に使うとしていたが、いまでは自民党にすり寄り国土強靱化などと公共工事にも使うと言い始めている。

「大企業と金持ちが第一」で、国民生活はどうでもいいとの本音ではないか。

さらには「原発ノー」という7割の国民の声を無視して再稼働を強行し、オスプレー配備問題では「これは米軍の専権事項であり、政府は知りません。」と、傀儡（かいらい）政権のようなことを言っている。

だからと言って自民党や維新の会では、さらに大企業、金持ち優遇策により、労働者の生活はますます悲惨な状態となっていくのは明らかだ。

いまの日本政治の最大の悲劇は、リベラル、社会民主主義を掲げる政治勢力が少数であり発言力が弱いのが実情だ。欧州では、これらの政治勢力が大きな力を持ち、働く者の権利が保障されていて社会福祉政策が根づいているのに。欧州に追いつけ！！

(新)